媒体名	福島民報	版／面	第３面	掲載日	2026 年 3 月 5 日（木）

「復興新聞」副大臣に贈る

神田外語大生 県内取材し制作

贈呈式に出席した瀬戸副大臣（前列左から３人目）、関口椋久さん（同４人目）、佐野理事長（後列左端）ら

神田外語大（千葉市・佐野元泰理事長）の学生らは4日、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から15年となるのを前に県内の復興状況を取材し制作した「日英版震災復興新聞」を瀬戸隆一復興副大臣に手渡した。

大学では学生が見た「福島の今」を国内外に発信するプロジェクトを展開している。昨年8月に双葉郡を取材し、日本語版と英語版の復興新聞を作った。新聞発行などで福島民報社が協力している。

贈呈式を復興庁で行った。佐野理事長、同大キャリア教育センター長の柴田真一教授、柴田ゼミ生で3年の関口椋久さん（ゼミ長）、関口舜矢さん、大山豪太さん、長田紬さんが出席した。関口椋久さんが瀬戸副大臣に新聞を手渡し「風評や風化に立ち向かいながら、しっかり前を向く福島を取材できた。私たちが見た福島を国内外に発信する」と語った。瀬戸副大臣は「この経験を生かして社会人として活躍してほしい」と期待を寄せた。

広野町産バナナ原材料のビールも

広野町産バナナを原材料にして造ったビールも贈った。ビールを醸造した大鵬の大屋幸子代表取締役、贈呈を橋渡しした川本恭治城南信用金庫相談役が同行した。

※無断で複製・転じることを禁じます